

防災ニュース

NO.
209

年頭の辞

予防行政の取組み紹介
～埼玉東部消防組合消防局の予防行政～



2017. 1



公益財団法人 日本防災協会
JAPAN FIRE RETARDANT ASSOCIATION

年頭の辞	消防庁長官 青木 信之	2
平成29年新年賀詞交歓会開催		4
〈予防行政の取組み紹介〉		
埼玉東部消防組合消防局の予防行政	埼玉東部消防組合消防局 参事兼予防課長 新谷 智幸	7
〈連載 最終回 アメリカからの便り〉		
The White House Christmas Ornament 2016	リスクウォッチ代表 長谷川 祐子	11
ISO/TC94/SC13・14 ザンクト・ガレン会議報告	(一財)カケンテストセンター 辻 創	15
防災工事用シートの奏効詳細とその検証	京都市消防局	20
協会からのお知らせ		
平成28年度消防機器開発普及功労者表彰式開催される		23
平成28年度防災関係者表彰式開催される		25
千葉県内及び宮城県内の特別支援学校に防災製品を寄贈		28
平成29年度の防災講座の開講のご案内		29
防災品奏効事例		30
平成28年度防災加工専門技術者講習修了証の交付 (大阪会場)		32
消防庁からのお知らせ		
一般公開のお知らせ	消防庁 消防大学校・消防研究センター 日本消防検定協会 一般財団法人 消防防災科学センター	33
防災北から南から		35
協会ニュース		37

年 頭 の 辞

消防庁長官 青木 信之



平成29年の新春を迎えるに当たり、平素から地域の安心・安全を守るため、昼夜を分かたず消防防災活動にご尽力頂いております全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

我が国の消防は、皆様方のためまぬ努力の積み重ねにより、制度、体制、技術等各般に渡り着実な発展を遂げ、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしており、国際的にも高い評価を頂いているところです。

さて、昨年を振り返りますと、4月に発生した熊本地震では、観測史上初となる震度7の地震が2度発生し、熊本県を中心とした広い範囲で建物倒壊や土砂災害が多数発生し、多くの尊い人命と財産が失われました。

また、8月には、台風第10号の影響に伴う大雨により岩手県や北海道などの各地で河川が氾濫し、年末には、新潟県糸魚川市において、市街地火災では昭和51年の酒田大火以来となる140棟を超える大規模な火災が発生するなど、多くの人的被害や住家被害が発生しました。

首都直下地震、南海トラフ地震等の大規模地震の発生が危惧される今日、消防に対する国民の期待はますます高まっております。また、社会構造の変化に伴い複雑多様化、高度化する事故から、国民

の生命、身体及び財産を守るためには、消防防災体制を更に強化していく必要があります。

消防庁としましては、国民の皆様が引き続き安心して暮らせるように、緊急消防援助隊や常備消防力の充実強化はもとより、火災予防対策の推進、消防防災分野における女性の活躍促進、防災情報の伝達体制の整備などに取り組んでまいります。

また、地域防災力の中核となる消防団について、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」に基づき、女性や若者をはじめとする幅広い層の入団促進、消防団員の処遇の改善、装備・教育訓練の充実強化などについても全力で取り組んでまいります。

予防行政につきましても、近年の火災を受けて、社会福祉施設や有床診療所等に対するスプリンクラー設備の設置基準が強化されたことを踏まえ、比較的小規模な施設に対応したパッケージ型自動消火設備の技術基準を策定し、対象となる施設について早期の設置の促進・防火安全性の確保に取り組んでいるところです。

また、近年の住宅火災による死者数は1,000人前後の高い水準で推移しており、このうちの7割近くを高齢者が占めていることも重要な課題です。住宅火災による死者は、寝具類や衣類、カーテン等に着火して火災が拡大したことによるものが多くなっています。

福祉施設や病院などをはじめとした特定防火対象物はもとより、住宅につきましても、火災による死者を減少させるためには、カーテン等に着火しにくい防災物品等を使用することが大変有効であり、消防庁としましては、防災物品等の使用拡大を積極的に推進しているところです。

皆様方におかれましても、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのため、より一層のご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成29年 新年賀詞交歓会開催



丸山理事長挨拶

平成29年1月11日（水）千代田区一ツ橋の如水会館に於いて、日本防火協会主催による「平成29年新年賀詞交歓会」が行われました。

多数のご来賓、会員企業、消防機関・団体等、約250人の方々にご参会頂きました。

丸山理事長挨拶の後、消防庁長官青木信之様、東京消防庁消防総監高橋淳様よりご祝辞をいただきました。以下に青木長官のご祝辞並びに高橋消防総監のご祝辞を掲載いたします。

青木信之消防庁長官祝辞



青木信之消防庁長官

平成29年の新春を迎えるにあたり、公益財団法人日本防火協会をはじめ皆様方には謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃から、出火を防止すると同時に火災の拡大防止に効果がある防災品の開発及び普及に御尽力され、国民生活の安全確保に多大な御貢献をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年は、4月の熊本地震や10月の鳥取

県中部地震など大規模な地震が各地で発生したほか、8月に発生した台風第10号に伴う大雨により岩手県において多くの地域が孤立するなど、甚大な被害がもたらされました。また、12月に発生した新潟県糸魚川市における大規模火災では、多くの建物が焼失したことは記憶にあたりしいところです。

住宅防火に目を向けますと、近年の住宅火災による死者数は1,000人前後の高い水準で推移し、このうち7割近くを高齢者が占めており、この傾向は高齢化の進展とともに、今後も続くことが予想されます。

福祉施設や病院などをはじめとした特定防火対象物はもとより、住宅火災につきましても、火災による死者を減少させるためには、カーテン等に着火しにくい防災品を使用することが大変有効であり、消防庁としましては、防災品の使用

拡大を積極的に推進しているところです。

日本防災協会には、関係業界と連携して、防災品の品質を確保するという重大な責務がございます。皆様の永年にわたる御努力により築き上げられた防災表示制度を今後ともしっかりと維持・発展させていくためには、国民の防災品に対する理解と信頼が不可欠であります。皆様方には、これまで以上の品質管理に対する御尽力をお願いいたします。

消防庁といたしましても、引き続き日本防災協会をはじめ消防機関、関係業界の皆様との連携のもと、火災予防行政を一層推進し、住民が安心して暮らせる安全な地域づくりに全力で取り組む所存でございますので、これまでも増して皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の今後益々の御健勝と御発展を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

高橋淳東京消防庁消防総監の祝辞



高橋淳東京消防庁消防総監

平成29年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

公益財団法人日本防災協会並びに会員の皆様におかれましては、平素から防災性能確認試験や防災品の品質確保、広報及び普及活動を通じて火災予防の推進に御尽力いただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、平成28年の当庁管内の災害状況

を顧みますと、火災は3,980件、前年に比べ453件減少しておりますが、中でも放火を除く出火原因では、たばこによる火災が582件であり、全体の約15パーセントと高い割合を占めております。こうした状況を踏まえ、当庁では、ホームページや各種広報資料の配布等を実施して、たばこ火災をはじめとするさまざまな出火防止対策について、都民に注意を呼びかけているところです。

昨年は当庁管内においても、体育館の緞帳にスポットライトが接触して出火したものの、緞帳が防災品であったためぼや火災で収束した事例がありました。こうした奏効事例が例年積み重ねられていることも、ひとえに皆様の御協力により実施してまいりました、防災品の普及推進の賜物であると確信しております。

また、開催まで4年をきった東京2020

オリンピック・パラリンピック競技大会においても、当庁では「セーフ・シティ」の実現に向け、関連施設への防災製品の積極的な活用を指導するなど、防火安全対策の強化を図っております。

今後も当庁では、社会情勢の変化を捉えつつ防災品の普及促進を図ることで、都民が安全に安心して暮らせる社会の実現に全力を傾注してまいります。皆様におかれましても、首都東京の防火防災対策の推進に、引き続き御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、公益財団法人日本防災協会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝、御多幸をお祈りするとともに、本年が災害の少ない平穏な年になることを祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



会の進行は、理事長挨拶、ご来賓祝辞、日本消防検定協会顧問・次郎丸誠男様の乾杯の御発声のあと、語り部として全国でご活躍されている平野啓子様、在日米海軍司令部地域統合消防隊統合消防長ロドルフォ・ゴンザレス様よりスピーチを頂き、短い時間ではありましたがなごやかに新年の懇親の場となりました。その後、協会評議員である岡本義雄パン・リビング株式会社社長の中締めにより盛会裏に終了いたしました。



乾杯のご発声の
次郎丸誠男 日本消防検定協会顧問



中締めの岡本義雄
パン・リビング（株）社長

＜予防行政の取り組み紹介＞

埼玉東部消防組合消防局の予防行政

埼玉東部消防組合消防局 参事兼予防課長 新谷 智幸



1 はじめに

埼玉東部消防組合は、関東平野のほぼ中心に当たる埼玉県の北東部にあり、東京都心から概ね40～50km圏内に位置しています。管内の北部

に流れる利根川からの豊かな水や平坦な地形、肥沃な土壤に恵まれ、県内有数の穀倉地帯になっています。また、ほぼ中央に東北自動車道が縦貫し、首都圏中央連絡自動車道が久喜白岡ジャンクションを中心に伸びているなど、都心と東北地方及び関東各地を結ぶ交通の要衝となっており、産業団地や広域的な物流拠点の整備も進んでいる地域です。

米、梨などの農産物や「うどん」などの加工品、開宿400年を迎えた「日光街道の宿場町」、加須の「こいのぼり」などの伝統産業、桜の名所として名高い幸手の「権現堂公園」、230年以上の伝統を誇る「久喜の提燈祭り」、アニメ「らき☆すた」の舞台となった「鷲宮神社」、2020年の東京オリンピックの正式種目となった「スポーツクライミング」など、多彩で個性的な地域資源に恵まれています。

こうした地域をかかえる当消防組合は、加須市、久喜市、幸手市、白岡市、宮代町及び杉戸町の4市2町で消防の広

域化を図り、平成25年4月に発足しました。現在、管内人口約45万人、面積約321km²で、職員数644名（再任用含む）、18署所の体制で組織しています。

消防広域化のメリットを活かしながら、質の高い消防サービスの提供を目指して取り組んでいます。



加須市「ジャンボこいのぼり」



久喜市「久喜の提燈祭り天王様」



幸手市「権現堂堤」

2 予防業務体制

当消防組合の予防業務体制は、消防局予防課（予防担当・指導担当）、消防署管理指導課（管理担当・指導担当）、そして各消防署・分署・出張所の消防担当により予防業務を行っています。

消防局予防課では、火災予防の企画立案、広報、違反処理及び指導に関する事務とともに、消防署管理指導課及び各消防署等の予防事務に係る総括調整を行っています。

消防署管理指導課では、開発指導、消防同意、防火対象物の査察及び防火指導、危険物施設等の許認可事務のほか、防火協力団体及び民間防火組織の指導育成を行っています。また、各消防署等では、火災原因調査を行うとともに、防火対象物の立入検査を実施しています。

3 査察体制

当消防組合では、査察規程に定めた区分に従い、管内10,239件の防火対象物、1,423件の危険物施設をAからDの査察区分に定め、毎年消防局長が定める重点項目等の基本方針に基づき、各消防署が過去の査察結果やその他の違反事項等を考慮して、査察計画を策定し毎月計画的に行っています。

また、春季・秋季火災予防運動には、病院や社会福祉施設など火災時において人命危険の高い防火対象物や、危険物安全週間には製造所、一般取扱所等の特別

査察を実施するなど、施設の危険性に応じた査察・指導を行っています。

4 住宅防火対策

予防課の重点施策の一つとして、住宅用火災警報器設置率向上があり、火災予防運動、イベント等において広報活動を実施しています。

住宅用火災警報器の設置率は、平成28年6月現在70.1パーセント、条例適合率63.3パーセントで、毎年僅かではありますが上昇しているものの、埼玉県及び全国平均を下回っている状態にあります。

そこで、今年度は、設置率向上のための新たな取り組みを進めるため、職員からアイデアを募集したところ、若い職員からも様々な提案があったので、これらを活用して設置率の向上に繋がたいと考えています。

また、住宅用火災警報器の義務化から10年が経過し、普及啓発を行うとともに電池及び本体の交換についても広報活動を実施しているところです。



住宅用火災警報器普及啓発街頭広報



エアボールを設置しての広報活動

5 民間防火組織等

当管内には、保育園・幼稚園の園児で結成される幼年消防クラブが41クラブ、約4,800名が、正しい火の使い方や火事の恐ろしさを知り、消防の仕事について理解を深めることを目的として活動しています。

また、小学校31クラブ、約1,600名により少年消防クラブが結成され、学校や地域での火災予防の研究、防火ポスターを作成し火災予防を啓発するなど、多彩な活動を行っており、特に、夏休みの「消防体験学習」では、消防の仕組み、応急手当、結索法など消防に関する学習や体験を行い、児童にとって良い思い出になっているようです。



少年消防クラブの消防体験学習



防火協力団体による火災予防ポスター表彰式



特選受賞作品

婦人（女性）防火クラブは28クラブ、約3,500名がクラブ又は連合会単位で活動し、火災予防運動での広報活動や地域の防災訓練に参加し、日ごろ学んだ知識や技術を披露し、防火防災思想の普及啓発に貢献しています。

防火協力団体は、5団体、約1,000名の会員が、各事業所における火災事故の防止、危険物の安全管理や防火管理体制の充実強化に取り組んでおり、防火協会関係者や住民を対象に火災等災害の事故防止について、PR活動を展開しています。

平成27年度には、（公財）日本防災協会のご協力をいただき、防火安全協会会員及び職員を対象として、防災講座を開

催しました。

「身の回りの防災化の推進」について講義をいただき、会員からは、「防火対策への理解と認識が深まり、防災製品に対するの重要性を改めて知ることができた。」との意見をいただきました。



防火安全協会会員及び
職員を対象とした防災講座

6 違反対象物に係る公表制度

当消防組合では、平成29年4月1日の実施を予定しています。

管内にも、公表制度に該当する防火対

象物が存在していますが、平成27年より重大違反対象物に対して、公表制度の概要・目的等を説明するとともに、繰り返し指導を行ってまいりました。

結果、違反対象物は半減したものの、未だ是正されていない対象物があることから、今後とも違反を放置しない体制づくりに努めてまいります。

7 おわりに

以上、当消防組合の予防行政の一端を紹介させていただきました。

今後、地域住民からの消防に対する期待は、ますます高まるものと思われます。

消防広域化のメリットを最大限に発揮し、住民の生命・身体及び財産を各種災害から守るため、職員が一丸となって地域の防火意識の向上を図るとともに、予防行政の更なる充実・強化に取り組んでまいります。

連載 最終回 アメリカからの便り

The White House Christmas Ornament 2016

リスクウォッチ代表 長谷川祐子

2016年度大統領官邸クリスマス飾りがアメリカで発売になりました。今年は消防トラックが採用されました。これはアメリカの大統領の住まいであるホワイトハウスの広報宣伝の為に組織されたNPO（1961年設立）The White House Historical Association、（ホワイトハウス歴史協会）が毎年作成して販売してい

るものです。なんとあの暗殺された第35代ケネディ大統領夫人であるジャクリーン・ケネディさんが創始者です。娘さんは前日本大使であるキャロライン・ケネディさんです。

このように並べるとやはり似ていますね。その右の写真は第31代フーバー大統領（1923年～1933年）です。



ジャクリーン・ケネディ



その娘キャロライン、前日本大使



第31代大統領フーバー氏

イブの夜の火災、ホワイトハウス

なぜフーバー大統領かと言うと、2016年のクリスマス飾りはこのフーバー大統領の時に起こったホワイトハウスのクリスマスイブ火災がモチーフなのです。

それは1929年クリスマスイブの日でした。フーバー大統領夫妻はクリスマスの華やかで厳かなムードの中、ホワイトハウスのスタッフとその家族をもてなしていました。海兵隊バンドによるクリスマスキャロルがホールから響いていました。突然西ウィング、大統領執務室のあるオーバルルーム近くの屋根裏より火の手があがりました。1814年米英戦争のイ

ギリスによる焼き討ち事件で起きた火災以来ホワイトハウスで起きた最も大きい火災の始まりでした。19台の消防トラックと130人の消防士たちの懸命な働きによって夜10時過ぎに火災は鎮圧されました。

毎年順次、歴代大統領由来のクリスマスオーナメントを発売しているホワイトハウス歴史協会が今年のクリスマスオーナメントをその火災に由来して消防トラック、エンジン1をモチーフにしたという事です。次の写真が私の集めているクリスマスオーナメントです。



2016年消防自動車
(第31代大統領由来)



2015年クリスマスツリー
(第30代大統領由来)



2012年大統領専用車
(第27代大統領由来)

このようにそれぞれ歴代の大統領に由来するクリスマスオーナメントです。第27代ウィリアム・タフト大統領のオーナメントは馬車から車に変わった最初の専用車がモデルです。第30代大統領のカルビン・クーリッジはツリーにデザインさ

れている活動で知られています。そして今年は第31代フーバー大統領の消防トラックデザインのクリスマスオーナメントが発売されましたので、火災に関する防災協会ニュースで紹介することにしました。

今年のユニークなクリスマスカード、アメリカ



昨年はカナダの消防署が煙感知器をクリスマスプレゼントとして1000個配布したニュースをお届けしましたが、今年の話題は上記3点の写真です。可愛いですね。

オクラホマ州デューラント消防署のクリスマスカードです。ABCニュースで取り上げられ、各地でこの可愛い写真が話題になっております。オクラホマ州デューラント消防署で今年生まれた消防士の赤ちゃんたちです。たった33人しか消防士がいない消防署で今年6人もの赤ちゃんが生まれたのです。6人の中の1人のお父さんである消防士がインターネットで話しています。“この消防署は若い消防士が多いので、毎年何人かの赤ちゃんが生まれますが、今年2016年は2

月から6月にかけて6人の赤ちゃん（男の子5人と女の子1人）が生まれました。それでクリスマスカードにして皆さんへ届けることにしました。未来の消防士たちです。”はしご車の上から撮った写真。黄色いホースをひな壇にして撮った写真。そして、はしご車の前トランクの中に入り込ませて撮った写真です。

あまりの可愛さにABCのニュースキャスターたちも笑いながらの放送になりました。

もちろん日本では、考えられない？！

2017年ピアス社のカレンダー

さてクリスマスカードの次はこの時期に必ず手に入れる私のお気に入りのカレンダーをご紹介します。以前の職場

に配備されているピアス社製の消防車はアメリカらしい派手な色使いをしています。また乗る人たちが思わずニヤッと笑いそうな所々に刺繍やマーク、そしてLEDを使用した収納庫ライト、青のライトが収納庫を開けるとピカッと光ります。海軍消防隊では日本車の消防自動車日本人従業員には人気です。故障が少ないのが一番の理由でした。でも私はアメリカ車の持つ人の目を引き付ける輝きのような雰囲気が大好きでした。そのピアス社が毎年発行しているのがカレンダーです。各地を代表する消防トラックが毎年投票によって選ばれて写真になっ

ています。また特徴の一つがその裏紙です。日本のカレンダーでしたら何もプリントされていませんが、このピアス社のカレンダーは裏紙にそのトラックのスペック（長さ、大きさ、重さなどなど）が書かれてあるのです。

写真の腕が悪いので裏紙スペックが良く見えないのですが、消防車好きにはたまらないグッズの一つです。価格は20ドル（送料別）。今年も私の仕事場に飾られます。アメリカの暦ですので休日もちろんながらアメリカの休日です。



表紙は消防士



1月カレンダー



裏紙はスペックが書いてある

救急袋の中身を見てみる

アメリカレッドクロスが発売している救急箱の中身を見てみましょう。やはり実用性に富んでいます。以前並行輸入をして購入したことがあるのですが、救急バックと災害バックに分かれていました。

・救急バック：懐中電灯、ラジオ、それぞれの電池、エマージェンシーブランケット、ファーストエイドキット23種、包帯、バンドエイド、くるぶし包帯、サニタイザー、ガーゼ、テープ、ハサミ、タオル、応急手当ガイド、2400キロカロリークッキー、水と水タンク、コンフォートキット（歯ブラシ、シャンプー、ローション、石鹸、歯磨き紙、櫛）マスク、サージカル手袋、雨具、笛。

・災害バック：コンフォートキットは興

味深いものです。

懐中電灯、電池、ラジオ、ペンライト、エマージェンシーブランケット、濡れタオル、マスク、雨ガッパ、ダクトテープ、笛、2400キロカロリークッキー、水と水タンク、コンフォートキット（歯ブラシ、シャンプー、ローション、石鹸、歯磨き紙、櫛）45種応急手当用薬品と包帯とガーゼ。

お値段もリーズナブルで、お医者さま監修の折り紙付きです。ただし日本での販売は薬事法で許可されていません。とても残念なことだと思います。（何しろ日本の救急バックや災害バックは一般的に高価です。）



救急バック (50ドル)



災害バック (99ドル)

最終回に際して

さて今回が2年続いた寄稿の最終回になります。この2年間、私のつたない文章にお付き合いを下さって本当にありがとうございました。防災協会ニュースへの寄稿は私に又勉強する時間を与えてくれました。頭の整理にもなりました。協会関係者の皆さまにもとても感謝しております。

昨年は沢山の災害が日本を、世界を襲いました。今年も油断はできません。

でもその度に驚いて、何もできなかったと嘆くことは出来ればしたくないものです。自助や共助としてアメリカの危機

管理のやり方を使って被害を半減することは私たちにもできます。出来るだけ実践的な訓練や消防士の心などもお伝えしたつもりです。

再び皆さまへ情報をお届けすることもあるかと思います。その時は宜しくお願いいたします。

感謝して、はせがわ

(なおこの連載は私のHP: www.risk-watch.net/にてアメリカの消防というコラムに載せさせて頂いております。よろしければご覧ください)



長谷川祐子 プロフィール
前在日米海軍司令部消防隊予防課長
現在はリスクウォッチ代表
<http://www.risk-wtch.net/>

ISO/TC94/SC13・14 ザンクト・ガレン会議報告

(一財) カケンテストセンター 辻 創

ISO/TC94 個人防護 (PERSONAL SAFETY) /SC13 個人用防護装備 (PROTECTIVE CLOTHING) /WG's (ワーキンググループ) 会議 及び SC14 消防隊員用防護装備 (PROTECTIVE CLOTHING AND EQUIPMENT-FIRE-FIGHTERS' PERSONAL EQUIPMENT) /WG's (ワーキンググループ) 会議
主催者: Empa

I. 会議日程及び場所

日程: 2016年10月24日 (月) ~27日 (木)

会場: Empa 会議室 (スイス連邦、ザンクト・ガレン)

月日	曜日	午前	午後
10/24	月	SC13 / WG 2 PG: 計装マネキン (ISO DIS 13506-1)	SC13 / WG 2 PG: 計装マネキン (ISO DIS 13506-2)
10/25	火	SC13 / WG 2 : 計装マネキン (ISO DIS 13506-1, -2)	SC13 / WG 2 : 発汗トルソー (ISO DIS 18640-1)
10/26	水	SC13 / WG 2 : 発汗トルソー (ISO DIS 18640-2) SC14 WG 1 : 一般要求事項	Empa 施設見学
10/27	木	SC13 / WG 2 : 燃焼試験方法 (ISO 9151, 15025, 6942他)	

II. 会議参加者 (敬称略・順不同)

日本4社 4名

池田 信一郎 (デュポン・スペシャルティ・プロダクツ(株))、武藤 拓也 (帝国繊維(株))、岡部 孝之 (日本毛織(株))、辻 創 ((一財) カケンテストセンター)

他 およそ10ヵ国 40名 (毎日参加者が流動するため確定数は不明)



会議場となったEmpaの建物外観



SC14 WG 1 会議風景

Ⅲ. 会議内容

1. SC13 WG 2 : ISO DIS 13506-1, ISO DIS 13506-2 計装マネキン

議長：ダグ・デイル氏（カナダ）

SC13及びSC14において、長期間に渡って議論がなされている計装マネキンの試験方法（ISO DIS 13506-1）及び、計装マネキンによる火傷予測（ISO DIS 13506-2）であるが、第2期目のラウンドロビンの結果より、測定するマネキン間での差が認められるという結論が出ていた。これらのことを踏まえ、今回の会議で現在審議されているDIS案をどのように修正していくかがポイントであった。1日目にISO DIS 13506-1及び-2についてのPG会議が開催された。更に、2日目に前日のPG会議での審議を踏まえWG会議が開催された。

1日目のPG会議は、計装マネキンのラウンドロビン試験に参加しているメンバー限定でISO DIS 13506-1、ISO DIS 13506-2について審議が行われた。日本からはラウンドロビンテストに帝人株が参加しているが、今回の会議には参加していなかったため、当日の日本からの参加者はいなかった。そのため、当会議で議論された詳細については不明である。

2日目のWG会議では、ヨーロッパ勢から現行のISO DIS 13506-1では、試験機の個体差があるので、製品の性能評価として使用していくのには、非常に困難なものであり、現行のScopeでは、防火装備の性能評価試験方法になっており、望ましくないという強烈的な反対意見が出された。一方で、北米・豪州勢は、何とかしてISO DIS 13506-1を成立させて、評価方法の一つとして確立したい一心で、激しい攻防が繰り広げられた。

やはり、評価試験機として確立するには、マネキン間での試験結果の違いが存在する以上、性能評価をする規格とするのは難しく、装備間の相互干渉性（コンパティビリティ）の評価や防火服の防護性をシミュレーションする一つの方法という立ち位置の試験規格であるということをScopeに盛り込んでいくことになった。

今後は、ISO DIS 13506-1はDIS投票で賛成多数で承認されていたが、多数のコメントが出されたこと及び今回の会議での審議内容を考慮し、原案を再度修正し、2回目のDIS投票に進むことになった。また、ISO DIS 13506-1の試験規格を使用して、数値計算より火傷予測を行うISO DIS 13506-2についても、前回DIS投票では賛成多数での承認を得ていたが、ISO DIS 13506-1の修正に伴い、本規格についても再度DIS投票にかけることになった。

2. SC13 WG 2 : ISO DIS 18640- 1 , ISO DIS 18640- 2 発汗トルソー

議長：マーティン・カマザイン氏（スイス）

ISO DIS 18640- 1（発汗トルソーによる熱透過抵抗測定方法）とISO CD 18640- 2（消防隊員の防火服着用時の生理的熱負荷の測定）は、TC94 SC13 WG 2でISO化を目指し、議論が続けられている。両規格は、前回のDIS投票では賛成多数であったものの、多数のコメントが寄せられた。そこで、今回の会議においてコメントに対する対応について審議が行われた。

今回の審議において、現在は消防用防火服を対象にした試験規格であり、防火服の熱抵抗性を評価するものであることが確認された。

〔参考〕発汗トルソーによる生理学的影響の評価

Empaは従来の水蒸気透過抵抗や温熱抵抗測定の代表的な試験方法のISO 11092を進化させたという位置づけで、発汗トルソーによる生理学的影響の評価方法（ISO DIS 18640- 1 及びISO DIS 18640- 2）を提案している。

ISO 18640- 1（発汗トルソーによる熱透過抵抗測定方法）の試験方法は、従来の発汗マネキンとは異なり、温湿度をコントロール可能なチャンバー内の円筒形のトルソーに対して、衣服構造を再現した積層のサンプルをセットし、温熱透過抵抗及び水蒸気透過抵抗を測定する。測定結果を統計的に計算し、最大許容作業時間：MAWD（Maximum allowable work duration）を算出することが出来る。

また、本測定装置はチャンバー内に設置していることにより、人間の状態を考慮し、安静時→発汗時→安静時を想定した測定をすることが可能であり、人間の発汗状態との相関性を取ったTHS（Thermal Human Simulator）として快適性評価を行うことが出来るとされている。

発汗トルソーの特徴は、ガーメントの中での湿気の移動を考慮することが出来る。また、プレート法は水蒸気の流れがサンプルの鉛直方向になるため、水蒸気の動きの影響を考慮しにくい、トルソー法では、実着装に近い形での測定が可能になる。更に、マネキンのようにデザインによる影響を受けにくいのが特徴である。

3. SC13 WG 2 : 熱と火炎に対する防護

議長：デイブ・マッシュューズ氏（イギリス）

(1) ISO FDIS 9151、ISO FDIS 15025、ISO FDIS 17493の投票結果に関する報告

ベティ・クラウン女史（カナダ）によりISO FDIS 9151、ISO FDIS 15025、ISO FDIS 17493の投票結果に関する報告が行われた。いずれの規格も賛成多数により承認されたことが報告された。今後、改正版ISOが出版されることになった。なお、ISO FDIS 15025の投票時にCENコンサルタントが技術的な指摘を行った。今回の投票はFDIS投票であり、ISOのルールではFDIS投票は、基本的にエディトリアルな事項の指摘に限られる。技術的な指摘をするにはタイミングが遅すぎるため、コメントは全て却下されISOが成立することになった。

(2) ISO 11611溶接用防護服の溶接時のUV防護特性試験の提案

ジャン・ベルリンガー氏（ドイツ）によりISO 11611溶接及び関連作業における防護服に対する紫外線防護特性の評価についての提案が行われた。溶接作業を行う際には、金属溶滴の飛散やバーナーからの熱伝達などの他、紫外線がばく露されるリスクがある。しかし、現在の溶接作業時に着用する防護服の代表的なISO規格であるISO

11611では、金属溶滴や熱伝達からの防護は盛り込まれているが、紫外線防護は含まれていない。そこで、この紫外線ばく露に対する防護を検討するために、新たな評価方法の説明が行われた。

分光光度計を用いて生地透過光放射強度を測定し、紫外線波長範囲（200～400nm）に相当する有効透過光放射強度（ E_{eff} ）を算出する。また、ヨーロッパでは、EU指令において人工光放射の職業ばく露による健康影響ばく露制限値（ H_{eff} ）が1日8時間で30J/m²以内と定められている。この健康影響ばく露制限値は、有効透過光放射強度とばく露時間（作業時間）の積で表すことが出来る。これらの関係を用いて、コットン100%やコットン/ナイロン、コットン/ポリエステル、難燃アクリル、PPS、アラミド混からなる20種類の生地サンプルを用いて、7種類の溶接方法における最大可能作業時間を算出した事例の報告があった。これらのことを踏まえ、ISO 11611を改正する必要があるかを議論する余地があることが提案された。

(3) ISO 6942 放射熱ばく露による熱伝達性試験の試験方法のアンケートに関して

クリス・ディーン氏（イギリス）により放射熱ばく露による熱伝達性（ISO 6942）の試験機に関するアンケートが2016年7月に行われ、今回そのアンケート結果の報告が行われた。アンケートの主な内容は、現在各ラボで使用している試験機のメーカー及び各試験機の電源やセンサーと遮蔽板までの距離などの試験機の仕様についてであった。アンケートの結果、7か所のラボからの回答があった。特徴としては、全てのラボが三相400V電源を使用していた。更に、5か所がWazau社の試験機であった。一方で、3か所のラボはセンサー中央部と遮蔽板の開口部との間の距離が10mmあったのに対して、距離がないラボもあった。熱伝達性試験機には熱源の設定としてローパワーとハイパワーの2条件があるものが多い。電源のパワーによって、熱源と試験片までの距離が変わってくるので、その影響を考慮し、現行規格に試験方法をより詳細に記載することが提案された。

今後は、新規審議案件として提案し、ラウンドロビンテストを行いながら審議を行っていくことが報告された。

4. SC14 WG 1：一般要求事項

議長：デイブ・マッシュズ氏（イギリス）

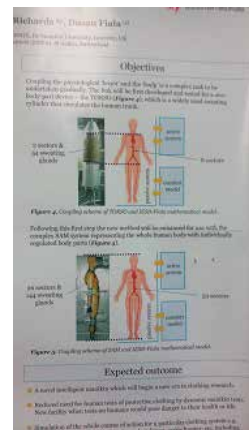
2016年7月にアメリカ・グリーンビルでのSC14での審議内容の確認が行われた。その後、今回のザンクト・ガレン会議で審議が行われたISO DIS 13506-1及びISO DIS 13506-2、ISO DIS 18640-1及びISO DIS 18640-2の今後の進め方が確認された。いずれの規格もDIS投票を再度行うことが確認された。

5. Empa施設見学

Empaはスイス連邦の材料試験研究所（Swiss Federal laboratory for Materials science and Technology）である。日本の国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）に類似した組織である。7つの研究分野があり、それぞれの研究分野は複数の研究室から構成され、合計37の研究室から成り立っている。主な研究分野は、ナノ構造物質及び24びナノ構造表面分野、土木・機械工学分野、交通・動力・環境分野などがある。この中の生活環境材料分野の防護性・生理学に関する研究室で防護服に関する研究を行っている。

今回、ラボツアーとしてEmpaの研究施設の一部を見学することが出来た。防護装備関係のラボでは、生理学的見地から研究が盛んに行われている。そのため、研究の範囲は、人間の体内で生じる現象をいかに数値化・定量化していくかの研究が多かった。従って、人間を実際に用いて行う実験をベースにそれらをシミュレーションする研究などに力が入っていた。そのため、総じて試験機は大型の物が多く、スペースの大きい試験室が多数あった。

今回のISO会議でも審議対象になった、発汗トルソーについては、多くの見学時間が割かれ、その場で参加者の中で様々な意見交換が行われた。発汗トルソーは人間の上半身を想定した、発汗円筒形モデルである。円筒形モデルに標準布を装着した上に、筒状にした試験片を積層し、円筒モデルの熱損失を測定するものである。測定中は円筒に対して垂直方向から送風し測定を行う。なお、円筒モデルには積層時の空隙を模擬するための治具も既に開発されており、今後どのように発展していくのか非常に興味深い内容であった。



発汗トルソー本体及び試験機を囲んでのディスカッション

防災工事用シートの奏効詳細とその検証

京都市消防局

解体工事現場において、溶断火が合成樹脂製プレート等に着火した火災現場で、防災性能を有する工事用シートにより火災の延焼拡大を防止できた奏効例がありましたので、火災の概要と奏効詳細を紹介させていただきます。

＜火災概要＞

平成28年9月、京都市内において、事務所建物の解体工事現場で外壁に設置されていた鋼製枠・合成樹脂製プレート製看板の溶断作業中に、溶断火が看板の合成樹脂製プレートに着火し燃焼するとともに、防災物品である工事用シート（ポリエステル製・ポリ塩化ビニル被覆1.8m×3.4m）7枚が焼損しました。

＜火災の初期発見者・通報者＞

ガス溶断機（LPガス及び酸素）を用いて溶断作業を行っていた作業員が、地上付近に散乱していた合成樹脂製プレートから炎が上がっているのを発見しました。

また、ほぼ同じタイミングで、隣接する幹線道で信号待ちをしていた車両の運転手が、工事用シートの上部から立ち上る煙と炎を見て携帯電話で119番通報をしています。

＜初期消火＞

解体工事を行っていた作業員4名で、散水ホース、水バケツ等により消火活動を行い、ほぼ、鎮火させています。

＜見分＞

工事用シートは、2箇所で燃え、計

7枚を焼損していることから（写真1）、かなりの広範囲で火災が発生していたものと思われます。一方、建物は、燃焼した看板が設置されていた外壁を残して解体が進んでおり、可燃物はほとんどない状況です（写真2）。



写真1 工事用防災シート2枚が溶融した部分



写真2 建物の解体が進んでおり、外壁の解体がほぼ終わっている状態

溶断火が着火した主な物は、看板の合成樹脂製プレートです。1つは、看板に残っていた合成樹脂製プレートで、これに接していた防災シートは、看板の形状に沿って中間から上部にかけて焼損しています(写真1の右側及び写真3の右上、写真5)。火災後、看板は、鋼製枠のみが燃え残っている状況です(写真3)。



写真3 看板の形状に沿って工事用防災シートが燃焼・溶融した部分

もう1つは、作業員が、溶断作業前に看板の内部を確認するために蹴破ったという看板の合成樹脂製プレートで、このプレート片を含む可燃物が地上付近に散乱・堆積していたもようで、これに着火したものです(写真4)。地上付近で燃焼したこれらの可燃物に接していた防災シートは、地上付近から中段にかけて焼損しています(写真1の左側及び写真4の手前の部分)。



写真4 地上付近の防災シートの焼失状況



写真5 防災シートの中間から上部に燃えている状況

＜防災シートの検証＞

火災当日、防災シートを持ち帰って燃焼実験を行ったところ、明確な防災性能を認めたことから、現場で使用されていた工事用シートは消防法令に適合するものであることを確認できました。また、防災ラベルも貼付されていました（写真6）。



写真6 防災ラベルを確認

＜考察＞

今回の火災は、現場に複数の作業員がいるにもかかわらず、付近を通行中の車両から119番通報が行われていることから、速燃的に燃焼したものと考えられます。もし、工事用シートが防災性能を有していなければ、溶断火が着火した2箇所の合成樹脂製プレートを中心に、外壁を覆っていた工事用シートの上部及び側面に火災が燃え広がり、作業員による散水ホース、水バケツ等での初期消火も間に合わなかった可能性が高いと思われます。

溶断火による火災が発生してしまったことは非常に残念なことです。工事用シートの防災性能により、火災の延焼拡大を防止でき、初期消火が間に合い、火災による被害を抑えられた事例と言えます。

平成28年度 消防機器開発普及功労者表彰式開催される

(公財)日本防災協会

平成28年度消防庁長官表彰式が平成28年11月2日（水）に明治記念館2階「蓬莱の間」で開催され、消防機器、消防設備等の分野でそれぞれ功績のあった方々が表彰されました。

消防庁長官表彰のうち、消防機器開発普及功労者表彰は、永年にわたり消防機器等の開発、製造、改良、施工、販売及び普及に貢献し、他の模範となる方々等を消防庁長官が表彰するものです。今年度は28名の方が受賞されました。このうち、防災関係では4名の方が受賞されました。



平成28年11月2日 平成28年度消防機器開発普及功労者表彰 於 明治記念館

防災関係の受賞者は次の方々です。

消防機器開発普及功労者表彰受賞者（防災関係のみ、五十音順）

氏 名	所 属	役 職
地石 正義	福井カーテンレース産業協同組合	工場長
平良 清治	全国防災加工振興会	副会長
堀木 俊男	アビオン株式会社	代表取締役
水越 隆司	ベニクス株式会社	会長

この消防庁長官表彰式では、消防庁長官の式辞の後、消防機器開発普及功労者（防災関係者4名を含む）などそれぞれの業態の表彰受賞者の氏名が読み上げられ、消防庁長官から各業態の代表受賞者に対して表彰状が授与されました。続いて日本消防設備安全センター理事長表彰が行われました。

その後、全国消防長会会長の祝辞（代読）が述べられ、表彰式は盛会裡に閉会となりました。

今回の表彰式には、受賞関係者を始め、消防機関、消防防災関係団体、消防防災事業者、消防専門誌等多数の方々にご参加いただきました。



防災関係の受賞者の方々
（左から地石正義氏、平良清治氏、堀木俊男氏、なお水越隆司氏は都合により欠席されました）

平成28年度 防災関係者表彰式開催される

(公財)日本防災協会

日本防災協会は、平成28年11月21日（月）、午後4時30分から東京・ホテルルポール麹町において、平成28年度防災関係者表彰式を開催しました。

この表彰は、永年にわたり、防災物品、防災製品並びに防災薬剤の普及業務及び品質管理業務の推進に尽力された個人等に対して、日本防災協会理事長が行うものです。

具体的には①永年にわたり、防災品等の普及指導で特別な功労のあった方、②永年にわたり、自社防災品等の品質管理が優秀で他の模範となると認められる方、③新規の防災品等の開発などで特に功労が認められる方として20名の方々が表彰を受けられました。

表彰式では、丸山理事長の式辞の後、受賞者に、それぞれ表彰状と記念品が授与されました。その後、来賓としてご出席の消防庁長官青木信之様並びに全国消防長会会長高橋淳様からご祝辞をいただきました。

受賞された方々には、これらのご功績に対し、心からお祝いと感謝を申し上げますとともに、この受賞を契機に、今後も益々、防災品の普及啓発にご尽力をいただけますことを期待いたしております。





防災関係者表彰を受賞された方々

	濱田 正和	宮本 外次	井田 達成	迫田 昌良	野中 俊秀	小池 律子	
	三佐 和明	佐藤 晃一	藤原 清和	山上 顕太	鈴木 弘行	河島 晃	
山藤 準二	植村 幸生	全国消防長会会長 高橋 淳	理事長 丸山 浩司	消防庁長官 青木 信之	常務理事 渡邊 洋己	神谷 邦雄	川鍋 道宏

記念写真・お名前（敬称略）

平成28年度防災関係者表彰受賞者名簿

(敬称略 部会・協会会員団体順)

氏名	所属部会・団体	会社・団体名、職名
おか 岡 洋 介	カーテン等	松井一株式会社 大阪営業所 所長
さん 山 藤 準 二	カーテン等	日本ビニル工業株式会社 取締役管理部長兼企画担当
さわ 澤 井 美 保	じゅうたん等	東レ・アムテックス株式会社 品質保証課
うえ 植 村 幸 生	整染	ナテック株式会社 技術研究部 部長
かみ 神 谷 邦 雄	重布染色加工	キョーワ株式会社 代表取締役社長
かわ 川 鍋 道 宏	重布染色加工	日本通商株式会社 東京支店 課長代理
み 三 佐 和 明	合板	有限会社アダチ技研 営業部 課長
さ 佐 藤 晃 一	寝具等	株式会社三裕 代表取締役社長
ふじ 藤 原 清 和	布張家具等	ドリームベッド株式会社 生産本部生産技術部 部長
やま 山 上 顕 太	広告幕	井上染工株式会社 工場長
すず 鈴 木 弘 行	広告幕	積水ナノコートテクノロジー株式会社 テキスタイル製造部 部長
にし 西 村 一 郎	消防・防災用品	クツワ工業株式会社 代表取締役社長
かわ 河 島 晃	日本室内装飾事業 協同組合連合会	日本室内装飾事業協同組合連合会 理事 中部ブロック長 岐阜県室内装飾事業協同組合 理事長
すず 鈴 木 英 治	日本室内装飾事業 協同組合連合会	日本室内装飾事業協同組合連合会 理事 愛知県室内装飾事業協同組合 理事長
はま 濱 田 正 和	日本室内装飾事業 協同組合連合会	日本室内装飾事業協同組合連合会 理事 兵庫県室内装飾事業協同組合 理事長
みや 宮 本 外 次	日本室内装飾事業 協同組合連合会	日本室内装飾事業協同組合連合会 総務委員 石川県インテリア事業協同組合 理事長
い 井 田 達 成	日本テントシート工業 組合連合会	日本テントシート工業組合連合会 副理事長 広島テント工業株式会社 代表取締役
さこ 迫 田 昌 良	日本テントシート工業 組合連合会	東京都テントシート工業組合 副理事長 株式会社太陽テント 代表取締役社長
の 野 中 俊 秀	日本クリーナーズ 防災協会	日本クリーナーズ防災協会 理事 九州支部長 株式会社大分白屋 代表取締役社長
こ 小 池 律 子	全国防災加工振興会	全国防災加工振興会 理事 有限会社小羽 代表取締役

千葉県内及び宮城県内の特別支援学校に 防災製品を寄贈

(公財) 日本防災協会

平成28年11月22日(火)千葉県教育会館で開催された県内特別支援学校校長会の会議に先立ち、国立、県立及び市立全ての学校長の皆様が集合するなか、当協会の渡邊常務理事から千葉県特別支援学校校長会の日暮会長様に対して防災製品寄贈目録を贈呈しました。

目録贈呈に際して渡邊常務理事は、出席された方々に着衣着火火災における防災製品の有効性・必要性について説明し、日暮会長様からは「防災製品を通じて、子供たちの防災教育の一つとして、火災から身を守ることに活用してゆきたい。代表して厚く感謝申し上げます。」とのコメントを頂きました。

このような特別支援学校への支援は、平成24年度から5都道府県の217校に対して行っており、今年度は、調理実習での活用を目的に千葉県及び宮城県への寄贈を計画してまいりました。この度の千葉県には、19校に対して176セットの防災エプロン・腕カバー及び136着の防災製割烹着を寄贈させていただきました。この他、宮城県内の特別支援学校6校にも防災製品のエプロン・腕カバー及び割烹着を寄贈させていただきました。

特別支援学校への寄贈事業については、調理実習で防災製品を活用する生徒に加えて先生方及び保護者の皆さんの防災製品に対する認識が高まることも期待されるもので、普及促進効果が大きい認められるものです。当協会としては、今後も予算の許される範囲で継続してまいります。



渡邊常務理事から日暮千葉県特別支援学校校長会会長へ目録贈呈

平成29年度の防災講座の開講のご案内

(公財)日本防災協会 総務部

住宅防火対策については、消防庁はじめ消防関係機関等において様々な取組が行われております。しかしながら、全国の住宅火災による死者は、毎年1,000人前後に上っており、そのうち、特に高齢者の占める割合は、約70%で年々増加する傾向にあります。このような状況の中で、火災の被害抑制効果が認められる各種防災品に対する認識が、徐々に市民に浸透してきております。当協会では、平成20年から火災予防行政に当たる消防職員・消防団員等を対象に、防災に関する正しい知識を深めて頂くことを目的とした防災講座を各地で開催してまいりました。その後、講座の対象者を消防職員等に限定せず女性防火クラブ等、防災ボランティア組織、老人クラブや消費者団体の方々にも広げ、消防機関と連携しながら、防災品の普及広報に努めております。平成28年度は60箇所を超える講座を実施し、広く防災品に対する知識等を深めて頂きました。

平成29年度においても、各方面からの開講の要望に応え、予算の範囲内でできる限り講座を開講するため、年間を通して随時募集して参ります。今まで講座開講の実績のない消防学校や消防本部、その他の関係団体等における開講を大いに歓迎いたします。

講座の開講に当たっては、主催者に会場と人員を確保して頂き、当協会が講師及び研修テキストの準備をいたします。開講に伴う講師の派遣費用及び研修テキスト費用につきましては、当協会が全て負担いたします。

講座は概ね下記の要領に基づき開講しますが、ご不明な点等ございましたらどのようなことでも結構ですので、お気軽にご相談下さい。

記

1 講座開講の申込み

開講を計画している①都道府県又は政令指定都市消防学校、②消防本部、③その他の機関等から電話又はメールにより協会にご連絡下さい。

2 講座コース

(1) 専門コース（2時間から3時間）

- ① 防災制度
- ② 防災技術
- ③ 防災の効果等

(2) 一般コース（1時間から1時間30分程度）

- ① 身の回りの防災化の推進
- ② 防災・非防災の比較映像等

防災品奏効事例

日本防災協会では、防災品を使用していたことで延焼拡大を防ぎ、火災に至らなかったことで自身の安全と建物の被害をくい止め、また、火の勢いがなくなった為に安全に初期消火の行動ができた事例を紹介しています。

今回は大阪市消防局管内での奏効事例2例をご紹介します。

奏効事例1

平成26年3月、鉄筋コンクリート造陸屋根地下3階地上9階建の複合用途建物（物販・飲食店等）の地下2階機械室内において、従業員が機械室に設置していた空調設備の配管をアセチレンガス溶断機で解体していたところ、溶断作業中の火花が付近にあった断熱材に着火して燃え上がり、空調設備及び防災シートを焼損した。防災シートであったため、他に延焼することなく従業員の初期消火により消火した。



防災シートの焼損箇所

焼損箇所

奏効事例 2

平成26年12月、区民ホールにおいて、天井部分の下地鉄骨の溶接作業を行っていたところ、火花が一文字幕に着火し、一文字幕、どん帳及び防災シートを若干焼損した。防災品であったため、他に延焼することなく、作業員の初期消火により消火した。



どん帳及び防災シート



一文字幕及びどん帳

私達の身の回りは燃えやすい繊維製品であふれています。以上のように「防災品」を使用することで、いざと言う時に身を守り、逃げる時間をかせぐことができます。

高齢者の独居世帯や、共働き世帯が増えている今、住宅防火に役立つ防災品を使用することで安全・安心な暮らしを地域に広げていきたいものです。

防災品を使用していた事で大きな火災にいたらなかった事例を募集しています。情報がございましたら日本防災協会広報室までご連絡を (03 (3246) 1661) お願いいたします。

平成28年度

防災加工専門技術者講習修了証の交付（大阪会場）

（公財）日本防災協会 管理部

平成28年度防災加工専門技術者講習実施の結果、次表の方に講習修了証を交付しました。

氏 名	都道府県名	氏 名	都道府県名
白井 章仁	大阪府	池上 修司	和歌山県
立川 憲一	大阪府	菅原 嘉績	大阪府
福島 勉	滋賀県	田村 浩輝	大阪府
藤澤 真誠	滋賀県	印部 健太郎	岩手県
石岡 達也	滋賀県	佐藤 雅彦	岐阜県
渡邊 政己	愛知県	野原 淳俊	岐阜県
矢里 一樹	大阪府	清水 裕美子	京都府
井上 拓弥	奈良県	北村 瞳	大阪府
小野 新二	福岡県	赤木 香緒利	岡山県
前田 努	兵庫県	井上 明朗	鹿児島県
小林 弘明	京都府	田畑 洋一	兵庫県
小谷 靖志	京都府	高田 貴弘	大阪府
田中 朋子	福井県	住本 和之	高知県
小西 慎吾	大阪府	加藤 修	大阪府
馬場 真由美	大阪府		

一般公開のお知らせ

消防庁 消防大学校・消防研究センター
日本消防検定協会
一般財団法人 消防防災科学センター

消防大学校・消防研究センター、日本消防検定協会及び一般財団法人消防防災科学センターでは、平成29年度の科学技術週間にあたり、一般の方々に試験研究施設を公開するとともに、消防用機械器具・消防防災の科学技術に関する研究の展示、実演等を下記のとおり行いますので、皆様お誘い合わせの上、ご来場くださいますようお願い申し上げます。

記

1 日 時

平成29年 4月21日（金）
午前10時から午後4時まで
入場無料

2 場 所

消防大学校・消防研究センター
（東京都調布市深大寺東町4-35-3）
日本消防検定協会
（東京都調布市深大寺東町4-35-16）
※（同一敷地内にあります。）

3 公開内容

【消防大学校・消防研究センター】

石油タンク火災の泡消火実験、軽油の燃焼実験、可燃性液体火災の消火実験、原因調査室の調査業務の紹介、津波被害

現場用消防車両の実演、太陽光発電システムの発電抑制技術および消防車両の展示等

【日本消防検定協会】

消火器・屋内消火栓の操作体験、住宅用消火器による消火実演及びエアゾール式簡易消火具の消火体験、住宅用防災警報器の展示と実演等

【消防防災科学センター】

放火対策GIS、スマートフォンを活用した災害応急活動支援システム「多助」、平成28年熊本地震災害

4 交通機関

- (1) JR中央線吉祥寺駅南口下車、「深大寺」「野ヶ谷」「調布駅北口」行きバス（6番乗り場）で「消防大学前」下車
- (2) JR中央線三鷹駅南口下車、「野ヶ谷」行きバス（8番乗り場）で「消防大学前」下車
- (3) 京王線調布駅北口下車、「杏林大学病院」行きバス（14番乗り場）で「東町3丁目」下車、徒歩5分

5 問い合わせ先

■消防研究センター 研究企画室
電話 0422-44-8331 (代表)
ホームページ <http://nrifd.fdma.go.jp/>

■日本消防検定協会
企画研究部情報管理課
電話 0422-44-7471 (代表)
ホームページ <http://www.jfeii.or.jp/>

■一般財団法人 消防防災科学センター
総務部
電話 0422-49-1113 (代表)
ホームページ <http://www.isad.or.jp/>

平成 28 年度一般公開の様子



石油タンク火災の泡消火技術



スマートフォンを活用した災害応急活動支援システム



津波被害現場用の消防車両開発



消防大学校での教育訓練資器材



原因調査室の業務



屋内消火栓の操作体験

防災北から南から・防災西から東から

福岡市中央区 安全・安心フェスタ2016

福岡市中央消防署

平成28年10月16日（日）、福岡市中央区、九電記念体育館において、「中央区安全・安心フェスタ2016」が開催されました。

このイベントは、従来、5月頃、中央区内の地域防災訓練として実施していたものを、今年から住民参加型のイベントとして新たに開催されたものです。

早朝はあいにくの雨模様で開催も危ぶ

まれましたが、開始の10時頃には天候も回復しイベント日和となり約3,000人（主催者側発表）の参加がありました。

屋外では警察、自衛隊、消防等の車両展示及び各種体験等が実施される一方、体育館内では各参加団体による展示ブースでの実演、体験等が行われました。

（公財）日本防災協会からは、身近な防災品のパネル展示及び防災チラシでの防災啓発があり、来場者の方から防災品についての問い合わせや「展示パネルを自主防災訓練に借用したい。」等の要望もあり、関心の高い防災フェスタとなりました。



防災北から南から・防災西から東から

自力避難困難者を守る！

東京消防庁玉川消防署

小規模社会福祉施設やベビーホテルなど自力避難困難者が利用する施設の責任者等を対象とした「自衛消防訓練指導者講習会」を11月16日・17日に実施しました。

防火管理者の選任義務がなく、消火・避難訓練なども行われていない施設から

の参加者もあり、火災が発生すると初動措置が遅れ人的被害にもつながりやすいため、過去の火災事例や教訓、防火のポイントについて講習会を実施したところ、両日で47人の参加者がありました。

防火管理者の選任義務がなくてもカーテンやじゅうたんなどは防災製品の使用が義務付けられていることを説明し、防災製品比較燃焼実験を見学してもらい、違いを体感してもらいました。

参加者からは「防災製品の安全性がよくわかった」などのコメントがあり、実りのある講習会となりました。



活躍してます！防災品

隣の家が火災！近づく炎を防災カーテンが遮断。

専用住宅に住んでいるAさんは、天ぷら鍋に油に火をつけたまま、その場を離れたことから、天ぷら油が過熱し火災となりました。

2階から吹き出した炎は隣家にも達しましたが、隣家には窓に防災カーテンが使用されていたため、炎を遮断し、建物内部への類焼を免れました。

ガスコンロのそばを離れる時は必ず火を消す習慣をつけてくださいね。

万一にそなえて防災品を！

消子ちゃん

お隣が火事だー